

◆ 今週のコメント

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2.21(86例)で、先週(1.62)に比べ増加しています。例年12月をピークに報告数が増加しますので、今後の動向に御注意ください。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は0.77(30例)で、2週連続で増加しています。年齢階級別では、1歳(12例)、4歳(5例)、2歳(4例)の順に多く、1歳～4歳が73.3%を占めています。

◆ 今週のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、0.46(18例)で、先週(0.31)に比べ増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 特集:手足口病

手足口病の定点当たり報告数は、第28週(7月11日～7月17日)に12.68となり、昭和57年に感染症発生動向調査が開始されて以降、最も高くなりました。病原体情報と併せて、詳細を特集(4枚目)に掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 3例(肺結核 1例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 379例(肺結核 193例, その他結核 72例, 潜在性結核感染者 114例)うち喀痰塗抹陽性 106例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点66, 小児科定点39, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.21	86
	② 水痘	0.77	30
	③ 手足口病	0.69	27
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.46	18
	④ 突発性発しん	0.46	18
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

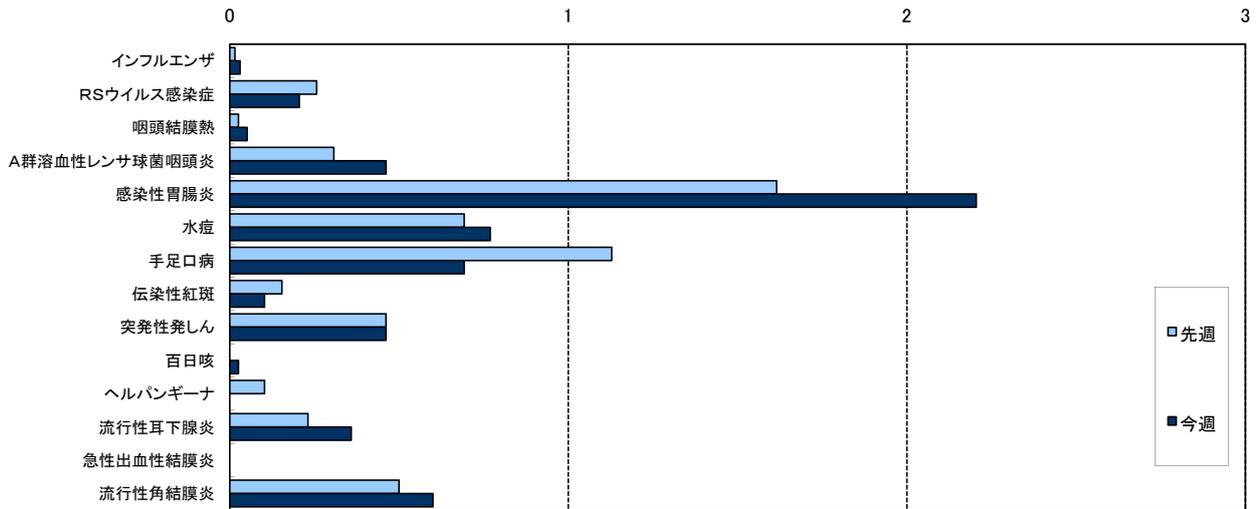
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> / 特集:手足口病

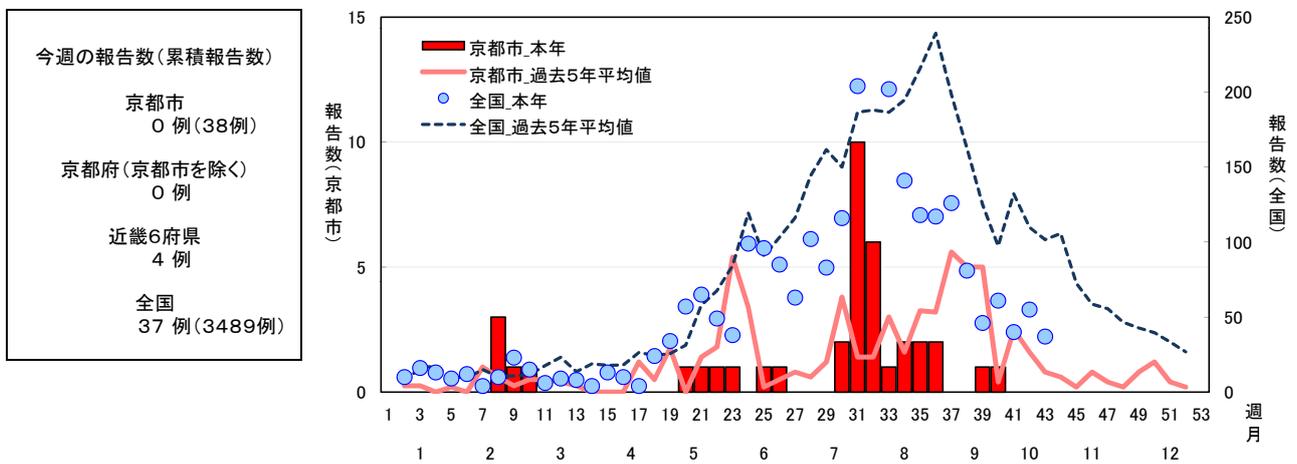
(注)京都市のデータは、平成23年11月4日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第43週)と先週(第42週)の定点当たり報告数の比較

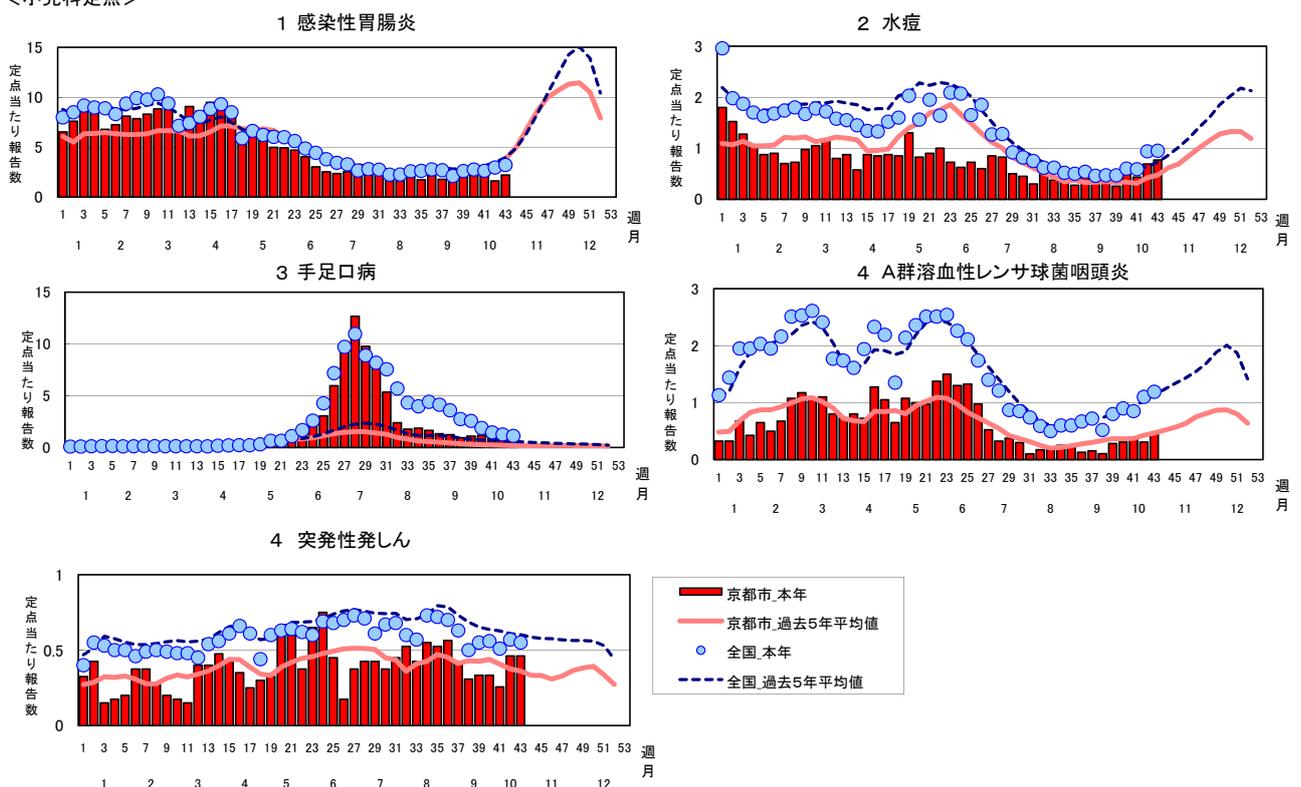


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



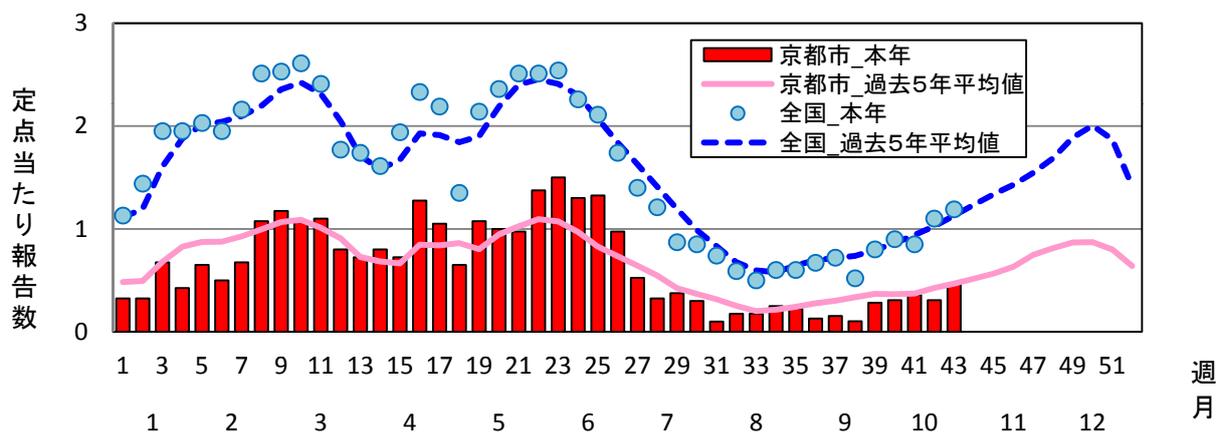
第43週(10月24日～10月30日)トピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、0.46(18例)で、先週(0.31)に比べ増加しています。例年、冬にかけて報告数が増加しますので、今後の動向に御注意ください。

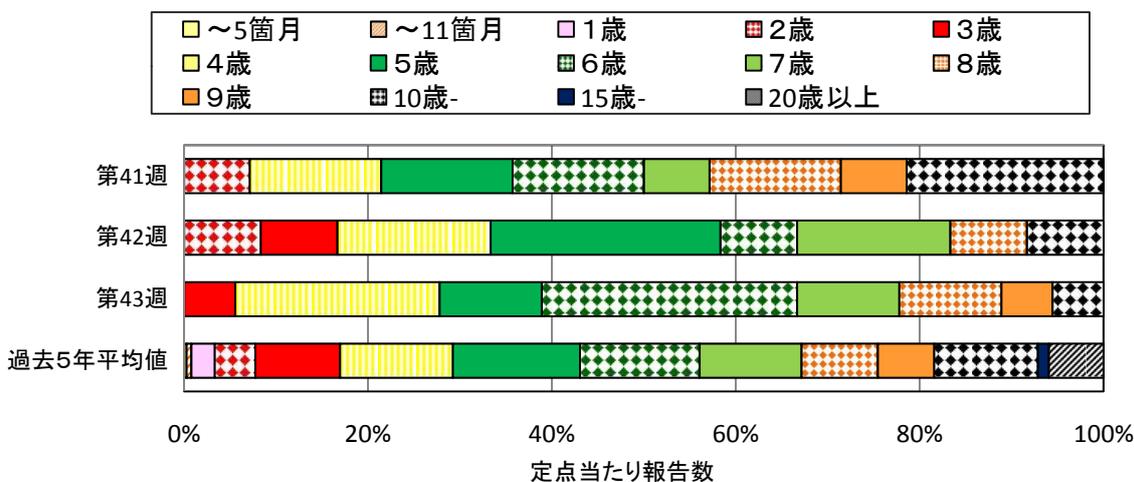
年齢階級別では、3歳～14歳で報告があり、6歳が5例(27.8%)、4歳が4例(22.2%)の順となっています。

行政区別では、南区, 西京区, 下京区, 北区で報告があります。

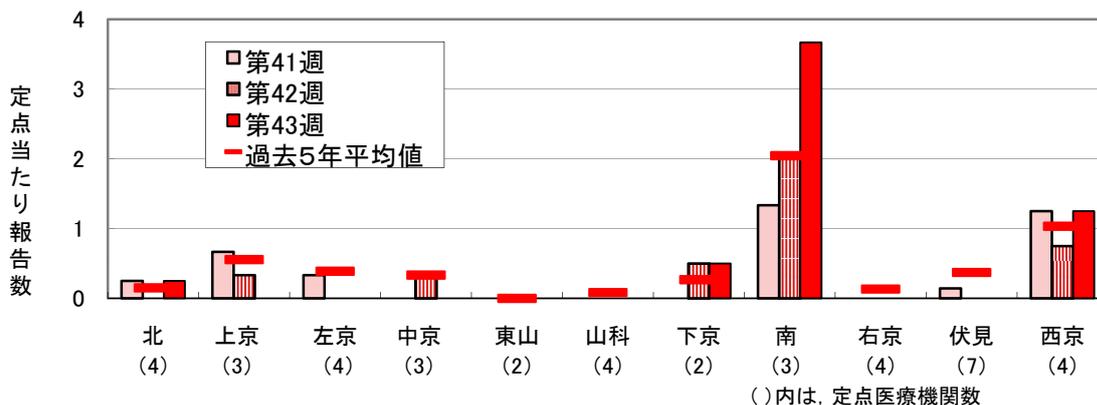
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合の推移(第41週～第43週, 過去5年平均値)



行政区別定点当たり報告数の推移



特集:手足口病(第43週までのまとめ)

手足口病の定点当たり報告数は第28週(7月11日～7月17日)に12.68となり、昭和57年に感染症発生動向調査が開始されて以降最も高くなりました。第28週のピーク後も過去5年平均値に比べ報告数が高い状態が続いています。例年、報告数が低下する第43週においても、定点当たり報告数は0.69(27例)で、過去5年平均値(0.18)を大きく上回りました。

手足口病の原因ウイルスは、コクサッキーAウイルス16型(CA16)とエンテロウイルス71型(EV71)が代表的ですが、本年はCA16、EV71は分離されていません。7月まではコクサッキーAウイルス6型(CA6)が主流で、8月にコクサッキーAウイルス10型(CA10)、コクサッキーBウイルス4型(CB4)などが、9月にはコクサッキーBウイルス3型(CB3)、CB4が分離されています。

CA6は、昨年まではヘルパンギーナ、かぜ症候群から多く分離されてきたウイルスですが、本年は、手足口病(27件)、かぜ症候群(15件)、ヘルパンギーナ(8件)、その他(2件)から分離されています。

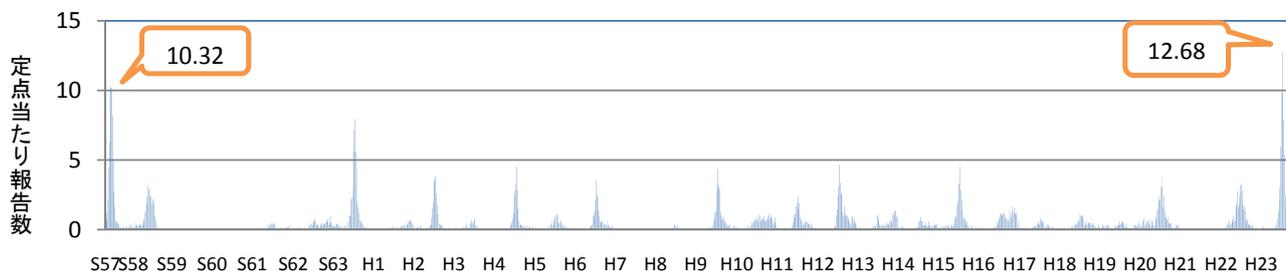
第43週までの年齢階級別の累計では、1歳以下が42.4%で、過去5年平均値(31.7%)に比べ多くなっています。

また、本年の手足口病は、従来の典型例と比べ、1)発疹の出現部位が異なり、2)水疱は扁平で臍窩を認め、しかもこれまでより大きいこと、の2点が特徴と考えられています。

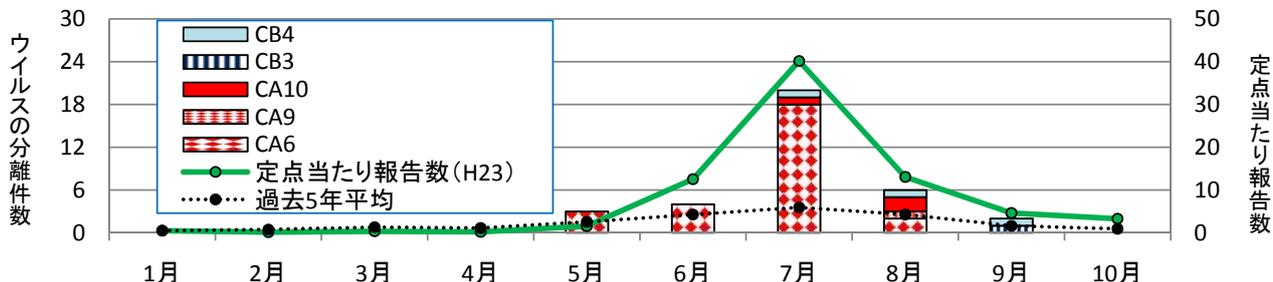
○手足口病, CA6については、以下のホームページをご参照ください。

・国立感染症研究所感染症情報センター病原体分離情報(IASR)速報記事(ウイルス)－エンテロウイルス
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/index-kv.html>

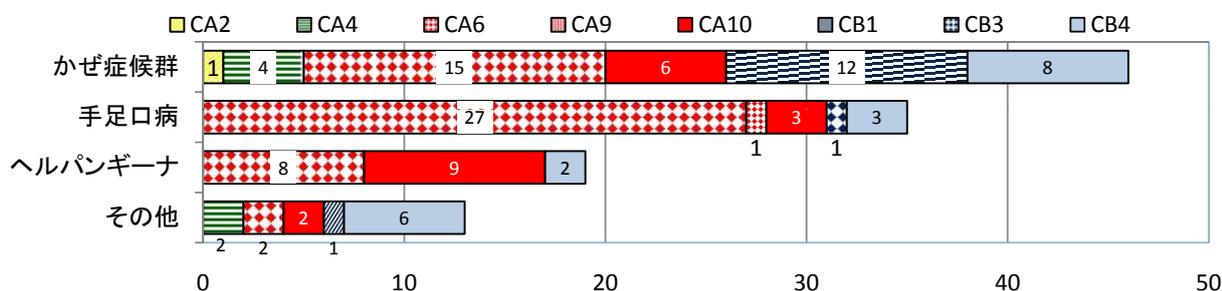
昭和57年以降の定点当たり報告数の推移(平成23年第43週まで)



手足口病から分離されたコクサッキーウイルス及び定点当たり報告数の月別推移



疾患別のコクサッキーウイルスの分離件数



年齢階級別割合

■ ~5箇月 ■ ~11箇月 ■ 1歳 ■ 2歳 ■ 3歳 □ 4歳 ■ 5歳 ■ 6歳 ■ 7歳 ■ 8歳 ■ 9歳 ■ 10歳- □ 15歳- ■ 20歳以上

